

「山村振興ビジョン」(案) に対する県民の皆様からのご意見の概要と県の考え方

No	意見の概要	県の考え方
<全般>		
1	<p>ビジョン全体を見ると、無意識のうちに都市を理想の形態としてとらえ、都市と比較しての強み、弱みから議論を始めているような気がする。都市を理想とする価値観を基本としている限り、山村が遅れた地域であり、条件の悪い、魅力のない地域であるという状態(人々の認識)を変えることは、はじめから無理なのではないか。山村における都市的サービスの提供には限界がある。都市を理想とする限り、山村から都市への人の流れは止めようもない。</p> <p>むしろこれからの時代は、都市ではなく、山村こそが人の住むべき魅力ある豊かな場所であるという価値観を設定することも可能であると思う。</p> <p>要するに、SWOT分析で現状分析を始める前に、山村に関する基本理念(価値観)を設定し、それにあわせて、全体の基調を整える必要があると感じる。</p>	<p>特に都市を理想の形態と捉えているわけではなく、ご意見と同様、三河山間地域が持つ魅力、強みを生かしながら、また、農山村に対する関心の高まりといった時代の潮流から生み出されるチャンスを最大限に受け止めながら、これからの地域づくりをしてまいりたいと考えております。</p>
2	<p>山村や農村が抱える最大の問題は、後継者が結婚できないこと。意欲を持って農業や林業の後継者となっても、その職業や居住地を理由に結婚できない。農業に興味を持って山村へ移住してくる人があっても、その人が配偶者を得られなければ一代限りで終わるし、山村に住んでいる限り結婚は無理との現実に突き当たれば意欲をなくして、何もする気がなくなってしまうことは間違いのない事実。</p> <p>財政難の折から先のない山間部にこれ以上税金を突っ込むのは止めて、最小限の費用で人間が山間地から撤収する方法を考えるべき。限界集落になったところの住民に、転居を促すようにして、行政効率の良い地域に県民を集約していく方が現実的な選択であると思う。</p>	<p>山村振興ビジョンでは、農林水産業の振興はもとより、男女がともに安心して暮らしていけるよう、多様な就労環境の創出や子育て環境の整備などを位置づけております。</p> <p>こうした取組を通じて、若い方々にも定住しやすい地域にしていきたいと考えております。</p> <p>また、この地域は、木材の供給をはじめ、災害の防止、水資源のかん養など、都市地域を含めた県全体を支える重要な役割を果たしておりますので、農山村に対する関心の高まりといった時代の潮流や、地理的条件を大きく変化させる可能性を秘めたプロジェクトの進展といったチャンスを最大限に受け止め、地域の活力の再構築をめざしてまいりたいと考えております。</p>
3	<p>定住自立圏構想の考え方が全く見られないが、県としてそれでよいのか。</p> <p>定住自立圏構想では、全ての市町村にフルセットの生活機能を整備することは困難であり、中心市が圏域全体の暮らしに必要な都市機能を集約的に整備し、周辺地域と連携・交流することを基本的考え方としている。</p> <p>三河山間地域では、豊田市、岡崎市、豊橋市などが中心市となるだろう。</p> <p>真剣に三河山間地域の将来を考えるならば、人口減少を前提に都市機能を集約していくことを勇気を持ってビジョンに盛り込むべき。</p>	<p>定住自立圏構想において中心市になるには、昼夜間人口比率が1以上などの要件を満たす必要があり、本県においてこの要件を満たしているのは、刈谷市、豊田市、安城市、西尾市、田原市の5市となっています。</p> <p>新城市や北設楽郡3町村は、どちらかといえば豊橋市や豊川市など東三河とのつながりが強いいため、現時点では、定住自立圏構想の枠組みが適用しづらいと考えております。</p> <p>なお、各施策の展開にあたっては、都市地域との近接性というポテンシャルを生かし、都市地域を含む広域的な枠組みで行うことが効果的であると考えており、山村振興ビジョンでは、広域的な連携の強化を図っていくことを位置づけております。</p>

<安心安全な暮らしを支える生活環境の充実>		
4	交通に関するこの地域の大きな資源であるＪＲ飯田線について何も記載されていない。リニア中央新幹線の記述があって、ＪＲ飯田線の記述がないのは不自然に感じる。	ご意見を踏まえ、ＪＲ飯田線の利便性の向上の取組を位置づけました。
<交流居住の活性化によるＵＩＪターンの促進>		
5	山里ファンクラブとあるが、住民にはあまり伝わっていない。これらの問題は、豊川流域の活動としての推進体制をしっかりと確立して、上流と下流との連携をもとに推進すべき。	「三河の山里ファンクラブ」の取組は、愛知県交流居住センターの活動として推進しております。今後は周知を図りながら、情報交換などを行える体制整備を行っていきたいと考えております。 なお、豊川流域圏や矢作川流域圏においては、上流域と下流域が連携した取組も行われておりますので、こうした既存の取組をベースとしながら、一層の連携強化を図ってまいりたいと考えております。
<観光・特産品振興による地域ブランド力の強化>		
6	この地域は、戦国時代、武田・徳川の戦いが激しく繰り広げられた地域であり、魅力的なエピソードを豊富に持っている。 長篠・設楽原合戦を単体で捉えるだけでなく、そこに至る経緯とその後を一連の流れとして捉えることで、史跡を巡る楽しさを感じさせてくれる筈であり、また、広範囲にわたる観光ルートを策定することが可能と思われる。 人気歴史小説家が、当地域を舞台とした小説を書かれている。大河ドラマを誘致するなど弾みをつけ、通り一遍でない視点から史跡整備を行うことで、観光地としてのブランドを築くことが可能と思われる。 行政が行う場合、どうしても通説的な内容しか紹介できず、教科書的で面白みに欠けることが多い。そのため、郷土史家や城郭を研究するＮＰＯ、歴史マニアの知恵や協力を得ながら進めていくことで、彼らの持つブログの影響力を利用しつつ、楽しめる観光ルート作成を検討していただけるとよい。	山村振興ビジョンにおいては、テーマ型観光の促進として武将観光を位置付けておりましたが、ご意見を踏まえて、ＮＰＯや歴史愛好家などとも連携しながら、埋もれた史跡やエピソードをきめ細かく掘り起こすことや、観光ルートを設定していくこと、往時を偲ばせる環境整備を行っていくことなどをさらに位置づけました。 こうした取組を通じて、武将観光を活性化させていきたいと考えております。
<農林水産業の振興と多面的機能の維持・向上>		
7	野菜を出荷する時に、規格というものがあり、規格外の多くは利用されていない。食べられるものが、食料とならないのはもったいないことだし、農家にとっては収入につながらないことは残念。規格というものは見直してみる必要があると思う。	ご意見のとおり、規格外の農産物は既存の流通ルートに乗りにくいといった面があります。山村振興ビジョンでは、規格外の農産物であっても、新鮮さや安全性といった別の側面でアピールすることが可能となる産地直売施設の活性化や、直売の仕組みの検討などを位置付けております。
8	学校給食に地産地消の取組は良いと思うし、安全安心としても結構なことだが、県内産のものは高値のため、いろいろ今後検討すべきだと思う。	山村振興ビジョンにおいては、給食における地場産物や郷土料理等の導入促進を位置付けており、学校関係者とも連携を図りながら、着実に推進できるよう取り組んでまいります。

9	<p>新規就農を推進することは大切ですが、病院の医師不足や学校の統廃合で敬遠して新規就農者は望めない現状。今後農地法の改正も行われ、農協等や一部企業の参加もできるとのことなので、この時期を捉えこの問題は水田の保全管理を含めプロジェクトチームを作り推進すべき重要事項だと思う。</p>	<p>山村振興ビジョンでは、新規就農に対する様々な支援措置のほか、医療、教育など安心安全な暮らしを支える生活環境の充実も位置づけております。これらの取組を併せて行いながら、また、ご意見を参考にしながら、新規就農の促進を図ってまいりたいと考えております。</p>
10	<p>若年層の流出と少子高齢化の進行の原因の一つに農業や林業をやっているだけでは、収入が少なく生活していくことが困難だということがあると思う。生活できる収入を得られるように当事者たちの努力も必要であるが、行政も法制度の改善や財政面の援助などの対策をとってもらいたい。</p>	<p>山村振興ビジョンでは、農業や林業の振興を図るため、研究開発の推進や高付加価値型の農林水産業の展開、農業生産基盤の整備、低コスト木材生産システムの普及・定着、三河材の流通の合理化などを位置づけております。</p> <p>こうした取組を通じて、農業や林業で雇用の創出を図るとともに、安定的な所得の確保が図られるよう取り組んでまいりたいと考えております。</p>
11	<p>中山間地は、コストがかかりすぎる。水田、畑、山林にしても大型機械が入らない。そのため、認定農業者は増えない。又担い手の林業従事者が生活できない。又価格保障がないため人生設計をたてるのが難しい。これらのために、抜本的な育成と給与等を含めたシステム作りが求められる。</p>	
12	<p>今日では、林業経営は依然厳しく、間伐が行き届かず荒廃していく人工林が多く、これらの対策として積極的な推進体制が望まれる。また、物流コストの軽減も大切である。</p>	
13	<p>山は公益的な機能を持っている。しかし、木材価格が低迷しているからといって、手入れをしなければその機能は働かない。洪水など災害が起きた時、県民の生命、財産は影響を受ける。</p> <p>自動車に定期点検を義務付けているように、山にもそういった検査、管理、手入れを義務付けるべきだと思う。そうすることで、山は常に本来の機能を保つことができるし、安定した山の仕事を作り出すことで、安定した収入につながると思う。</p> <p>また、県や国は、国産材を宣伝し利用してもらおうよう努力してほしい。</p> <p>県、国は、工業を優先して、林業や農業を衰退させ、山間地域を衰退させてダムを建設しやすい状況を作っているように思う。</p> <p>山は、県土保全、農業は食料を生産している。そのような重要な役割を山間地は担っている。このことをしっかり心に留めて考えてもらいたい。</p>	<p>ご意見のとおり、森林や農地は多面的機能を有しており、これらの機能を十分に発揮させるためには、農林業の活性化が必要であり、特に、間伐など人工林の適切な手入れが重要となっております。</p> <p>山村振興ビジョンにおいては、間伐の積極的な推進や三河材の利用拡大などを位置づけており、特に間伐の推進については、既存施策に併せ、林業活動による整備が困難な森林を対象として、平成21年度から導入する「あいち森と緑づくり税」による財源等を活用しながら、整備を進めていくこととしております。</p> <p>ご意見を踏まえ、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。</p>
14	<p>あいち森と緑づくり税に活用による事業の推進にあたっては、地域住民の意見を十分に聞いた上で行ってほしい。又、間伐等は競争入札等でこの事業をしっかりと行ってほしい。</p>	<p>事業の実施にあたっては、市町村や地域の皆様と十分、調整するとともに、間伐事業は、競争入札等により実施してまいります。</p>
15	<p>山林、里山の生物多様性については、従来の住民の意見を聞く必要があり、いろいろと伝承することが大切。</p> <p>先進的な取組で棚田等があるが、活動の中心メンバーが高齢の為、早く次世代対策を考えるべきである。</p>	<p>今後の施策展開にあたっては、ご意見を参考にしながら進めてまいります。</p>

< ビジョンの着実な推進 >		
16	<p> 今後は、このビジョンをもとに事業を行われると思うが、有識者だけでなくその地域に生活する人の集まりから意見を聞く必要があると思う。 </p>	<p> 山村振興ビジョンでは、地域住民はもとより、市町村、経済団体、大学、企業、NPO、ボランティアなど、様々な主体との連携体制のもとで施策を展開することとしています。ご意見を踏まえながら、今後の事業の推進を行っていきたいと考えております。 </p>
17	<p> 山村振興ビジョンは、10年後にはもう昔のものになるので、時期を見て改正なりして、奥三河の生活が豊かになり活性化することが望まれる。 </p>	<p> 山村振興ビジョンは、施策の進捗状況や外部環境の変化などを踏まえ、柔軟な見直しを行ってまいります。 </p>